

北海道医歌人会詠草

七月の花

札幌 魚住あらた

盛夏よとつとをし想ふけふなるも女郎花はい
まし秋がちかしと

ふけをしも風光りゐて清清しつくづくたりき
七月の花

けふをしもかばかりのいま風もなくつくづく
たりき臘月の夜

けふをしも草深きとの想ひなく照葉がすがし
草紅葉花

けふをしも秋愁はなしと月冴ゆる暑氣払いつ
つ熟たりき

坐禅草

札幌 山口 康徳

犬猫の直立しつと前進すレッサパンダの性質
もかくやと

低湿地にて眼こらしめる坐禅草鉢に移され市
民の視線待つ

海豹は水たたへたるガラス筒人喜ばせむとそ
こを上下す

舗装せる道路をJR車供用すZ〇の多客に対
する苦心策とか

無邪気なる大気の温度海渡り花綻ばす桜前線

白樫の刀

札幌 小国 孝徳

沖繩に比島に果てし友も来よポプラ並木は又
春の風

庭のリラナナカマド櫻桃こぞり咲く斯かる日
に吾は生まれたりしか

堆くふみの積まるる十畳間茂吉を掲ぐる場所
さへもなし

時代劇の見過ぎと人は笑はむかベッドに吊る
す白樫の刀

牛乳のパックを二つ下げて来しばかりに泥の
如くに眠る

新たな闘ひ

札幌 古屋 統

明らかに男と判る産声が二回相次ぎドア越し
ひびく

輸血三千弛緩出血乗り越えぬ命を賭けて産み
し娘は（〇先生に深謝）

嬰兒らのサーカディアアンリズムまだ成らず深
夜の授乳戦さながら

子育てを忘れて遠き老妻が深夜授乳の介助に
添える

三週間マタニティーブルーの兆しなし支援惜
しむなさど方我ら

連休に会ふ

帯広 中野 知弘

遙けくも四十年へて兄と会ふ語る人事は昨日
の如く

今になす由なき事ゆ語りつつ去りにし時に住
き来せりけり

連休は特急三時間、着港歩みとほせし山坂の
街

立ち並ぶ店やホテルを趨りゆくもと倉庫街と
きに通学路

いま病みて歩めぬ君を偲びる臭ほふ運河に
語る人生

彼岸にて

美唄 吉村 誠治

百歳のお祝ひ終へしフミさんは四日眠りて静
かに逝けり

一本の点滴のみで見守りぬ九十五歳静かに眠
る

続きたる百歳九十五歳の入所者の診とりを終
へて今日彼岸かな

安らかな眠り続きし診とり終へ般若心経写経
に座す

王ジャパン日本野球を示したりこの感激に母
國は酔へり